

ヶ丘の若狭小学校の体育館に木のスロープがついていること、明峰小のトイレの段差に教頭が自作のスロープで解消したという情報提供があった。

- ・ 3. 11に、公民館で、障害者への支援がなされなかったことへの反省。

- ・ 避難の時には、「支援は余裕があれば」になるだろう。

- ・ 避難の手順プログラムを作ってほしい

- ・ ボランティア配置の手順も作ってほしい

- * どう自宅から出るか、誰が補助するか、5名くらいの補助者と常時、付き合うことが有効（ボランティアより）。

3) 今後の勉強会に参加してほしい人：

- ・ 市営住宅自治会長、県営住宅自治会長に、勉強会の趣旨を説明、防災訓練などで、どのような連携が取れるかを、北村より事前に相談する。

- ・ 近所の人

4) その他

- ・ 会場の公民館は2階で、1階は児童館であった。

- ・ 2階へは、階段の他、リフトがあったが、まず、インターホンを押して、職員を呼び、リフトの電源を入れるために、インターホンのボタンが車いすでは押せない位置にあった。また、リフトの台がある階の扉のみが開閉できること、扉を閉めないとリフトが昇降しないために、2階に上がるのに、時間を要し、開始は10:17であった。

- ・ 会場の公民館のバリアフリーチェックは2009年に行っていた。

- ・ 最寄の小学校でも、バリアフリー設備の説明会があった。

5) 次回

- ・ 6月15日（日曜日）

- ・ 次回までの宿題（北村）

- * 若狭小学校の体育館に木のスロープ、明峰小のトイレの段差解消スロープを見学し、どの程度のものが有効かを確認する。

- * 公民館から、停電時のリフトとエレベーターの対応について連絡を受ける。

⇒ 停電時の非常電源はない。日曜日には公民館職員は1名になるが、平成26年4月から児童館が日曜日も開館するため、停電時の車椅子の昇降は職員が手伝える見込み。（注：具体的な方法を共有し練習する必要があると考える）

- * 公民館長に、勉強会の趣旨などを説明し、連携の可能性を相談する。

- * バリアフリー化を行っている小中学校を、市役所に問い合わせる。

⇒ 市役所に市内の避難所体育館のスロープとバリアフリートイレの設置状況を尋ねたところ回答を得た（図）。最寄の小学校の備蓄倉庫に災害弱者用トイレはあった、校舎からは体育館へのスロープが準備されていた。

- * 災害弱者トイレがある小学校を問い合わせる

⇒ 平成20年度 行政監査結果報告書（防災備蓄倉庫などの管理について）

http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/shisei_joho/kansa/syurui_kekka/gyouseikansakekka/20gyouseikansa/files/20gyouseikansahoukoku.pdf

によると、62か所中22か所に災害弱者用トイレはあった。また、平成25年度予算で*台のラップポイントイレ（汚物を自動的にビニール袋に包みシールする電動トイレ）が購入されていた。仮設トイレは和式、洋式、弱者用の3種類があり、多いところは合計5機があったが、様式と弱者用はない避難所の方が多かった。平成24年度の資料で、弱者用トイレがあったのは、松井小、荒幡小、柳瀬小、東所沢小、安松小、北秋津小、南陵小、富岡小、西富小、神栄小、清進小、明峰小、旧並木東小、若松小、林小、宮前小、北中小、北野小、小手指中、上山口中、泉小、日大芸術学部

- * 総合学習のリスト（社協）に、障害者の防災を掲載する相談をする。（代表者と）

6) 発言要旨

- I：今日は、避難場所が中央小学校である並木 8 丁目の皆さんに集まっていた。災害時の対応について、これから皆さんと話し合っていきたい。
- 北村：配布資料の確認と説明。M さんには後日メール送付の約束。写真と見取り図で、中央小の様子を説明。この勉強会では、大災害に備えた避難所のことを話してもよいし、停電や大雪などの日常の延長のことを話しても良い。例えば、今日の会場を避難所とする可能性について話してもよいと思う。2 階まで上がるためのリフトが大変だったことや、1 階の児童館が使えればよいかもしれないこと、寝るスペースやベッドの問題など。
- M：研究者が関わるのであれば、マニュアルのようなものを作ってほしい。いざという時に役立つネットワークやボランティアをどうやって育てていくかが大切。
- 北村：マニュアル作りなどは自分たちで作ってほしい。答えは一つではない。パンフレットの作成や全戸配布などを行うのであれば、そのお手伝いをするにはできる。我々の活動としては、昨年、美原小などの地域防災訓練に障害者を参加させる試みを行った。災害用のバリアフリートイレもあったが、中央小の備蓄倉庫にあるかは分からない。
- I：中央小の防災訓練には毎年参加している。県営グラウンドでやったこともある。障害者の参加も呼び掛けているが、なかなか実現しない。学校のバリアフリーに関しては、3 月 15 日付で教育委員長へ要望を出した。保護者に障害者がいて、教頭がスロープ等を板で作った例もある。災害はいつ起こるか分からないし、起こった時には学校が避難所になるのだから、学校は子どもたちの勉強の場だけではないということを認識しなければならない。近いうちに、中央小の点検（バリアフリーチェック）をしたいと思う。
- 北村：総合学習の時間に啓発活動をすることもできる。様々な人を巻き込んで進めていくことでうまくいく。
- YT：3. 11 の時、妻は社協にいたが、スタッフはみんなすぐに逃げてしまった。これが現実。家族や隣人とのつきあいが大事。
- I：学校に避難するような大災害はあまりないかもしれない。ただ、独居高齢者が増えていることもあり、隣近所との付き合いがますます大事になってきている。私は、自治会の役員をしたり、月に一度のそうじに参加したりして、つきあいをするようにしている。
- YT：県営では、2 割くらいは外国人。若い人は 10 年で退去しなくてはならないので、高齢者ばかり。
- I：みなさん、要援護者登録はしていますか？
- YK：平成 21 年に登録した。
-
- YKT：自転車置いてあるととても困る。
- I：8 月の防災訓練では、災害時要援護者名簿は使われているのか？
- 北村：災害時でないとな簿は使えない。訓練は災害時ではないのでだめ。
- YT：民生委員には、障害のことをよくわかっているボランティア組織の人になってほしい。
- 北村：民生委員の研修もよいかもしれない。ニーズはある。内容については、皆さんと一緒に考えていきたい。
- M：やっぱり隣近所との声掛けが大切。定期的な防災ニュースなどがいいかもしれない。
- 北村：弱音を言い合える関係づくりができればよい。停電になったらどうなるのか？
- YKT：5 階に住んでいるので、エレベーターが使えなくなる。
- M：10 階に住んでいる。エレベーターは自家発電があるから大丈夫だと思う。
- 下重：緊急時、車で過ごした人も多かったと聞いている。女性なので、トイレのことが一番心配。
- YT：県営だと、グラウンドに避難するのが現実的かもしれない。
- 青野：どうやって避難するのか、助けてくれる人を作っておくことが大切。独居高齢者もたくさんおり、孤立しないような関係をつくらなければならない。行政への要望もなかなか難しい。私のところでは、エレベーターごとに懇親会をする。近所で見守りあえるように、顔をつなげることが目的。マンションで縦長屋、小さなコミュニティをつくれるとよ

い。

- I：私のところでも、ちょっと事件があったので、親睦を深めるためのお茶会をやった。普段の掃除でもちょっとしたことくらいは話す関係ができている。それがいざという時にも役立つと思う。
- 高橋：仙台でも、普段のつながりが災害時に役立った例があった。地域でリーダーシップがとれる人を巻き込んでいくことが必要。
- YT：普段から関係をつくっていくことが大切。しかし、差別もあるから難しい。自治会長は年に6万円しかもらっていないので、感謝もしないと。副会長は2～3万円。一番いいのは連絡員で、年に20万円ももらっている。
- 今後、地域のお茶会や懇親会、チラシ配布、8月の防災訓練に向けた話し合いなどの実施を検討する。

IV. 研究成果の刊行に関する一覧表
書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
矢守克也・前川あさ美	序章 災害・危機と人間	日本発達心理学会	発達科学ハンドブック 第7巻「災害・危機と人間」	新曜社	東京	2013	1-5
前川あさ美	第1章 臨床・発達から見た災害・危機.	日本発達心理学会	発達科学ハンドブック 第7巻「災害・危機と人間」	新曜社	東京	2013	6-17
菅野恵・前川あさ美	第9章 子どもの虐待という危機	日本発達心理学会	発達科学ハンドブック 第7巻「災害・危機と人間」	新曜社	東京	2013	99-111
前川あさ美	第25章 乳幼児の事例 ト라우マを経験した幼児の事例	日本発達心理学会	発達科学ハンドブック 第7巻「災害・危機と人間」	新曜社	東京	2013	246-249
前川あさ美	災害と発達しょうがい	厚生労働科学研究	リーフレット	研文者	埼玉	2013	pp. 16
北村弥生	マルチメディアデイジー版「2011・3・11 東日本大震災を受けて 自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブック 自閉症のあなたと家族の方	日本自閉症協会	2011・3・11 東日本大震災を受けて 自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブック 自閉症のあなたと家族の方へ	(電子図書) 国リハHPより公開		2013	pp. **
北村弥生	マルチメディアデイジー簡易版「2011・3・11 東日本大震災を受けて 自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブック 自閉症のあなたと家族の方へ」	日本自閉症協会	2011・3・11 東日本大震災を受けて 自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブック 自閉症のあなたと家族の方へ	(電子図書) 国リハHPより公開		2013	pp. **

北村弥生	マルチメディアデ イジー英語版 「2011・3・11 東日 本大震災を受けて 自閉症の人たちの ための防災・支援 ハンドブック 自閉 症のあなたと家 族の方へ」	日本自閉症 協会	2011・3・11 東 日本大震災を受 けて 自閉症の 人たちのための 防災・支援ハン ドブック 自閉 症のあなたと家 族の方へ	(電子図 書) 国リ ハ HP より 公開		2013	pp. 46
北村弥生	マルチメディアデ イジー英語簡易版 「2011・3・11 東日 本大震災を受けて 自閉症の人たちの ための防災・支援 ハンドブック 自閉 症のあなたと家 族の方へ」	日本自閉症 協会	2011・3・11 東 日本大震災を受 けて 自閉症の 人たちのための 防災・支援ハン ドブック 自閉 症のあなたと家 族の方へ	(電子図 書) 国リ ハ HP より 公開		2013	pp. **

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
北村弥生、河 村宏他	精神障害者による津波避難準備活 動と地域.	国リハ紀要	34号	印刷中	2014
北村弥生他	東日本大震災被災地における災害 時要援護者支援の経験と課題.	国リハ紀要	34号	印刷中	2014
河村宏	防災・復興と電子出版	出版ニュース	3月下旬 号		2014
猪狩恵美子・ 高木尚・平賀 哲・福田智佳 子	東日本大震災発生に伴う訪問学級 児童生徒の被災状況と求められる 支援に関する研究.	特殊教育学研 究	51(2)	176- 180	
猪狩恵美子・ 高木尚・平賀 哲・福田智佳 子	東日本大震災発生時の訪問学級児 童生徒の被災状況と求められる支 援.	訪問教育研究	25	85-89	

口頭発表

発表者氏名	タイトル名	学会名等	年月日	場所
北村弥生、 白神晃子	地域における障害者の災害準備 と意識	日本保健医療社 会学会	2013-5- 18/19	埼玉
北村弥生	災害時要援護者支援	埼玉県所沢市民 生委員福祉部会	2013-07-22	埼玉
北村弥生、 高橋競	災害時要援護者支援と排泄	埼玉県所沢市地 域防災訓練	2013-08-31	埼玉
北村弥生、 高橋競	災害時要援護者支援と排泄	新所沢 UR い きいきサロン	2013-09-18	埼玉

北村弥生	災害時要援護者支援	埼玉県所沢市山口地区民生委員福祉部会	2013-10-19	埼玉
北村弥生	東日本大震災前後の南関東の盲ろう者による情報入手量の変化	日本災害情報学会	2013-10	群馬
北村弥生	盲ろう者に対する宿泊施設での平日夜間支援の効果	日本心理学会と	2013-09-11	神奈川
北村弥生、我沢賢之、小佐々典靖、河村宏	北海道浦河郡浦河町の社会福祉法人による災害時要援護者支援先進例と課題	日本障害学会	2013-10	東京
福田暁子、北村弥生	呼吸器利用・電動車いす利用で単身生活を行う盲ろう者の自助による災害時対策	日本障害学会	2013-10	
北村弥生、本多康生、小佐々典靖、我沢賢之、東修司	宮城県南三陸町における災害時要援護者支援体制と東日本大震災での経験	Pacific Rim International Conference on Disability and DIversity	2014-05-19	米国ハワイ州（ホノルル）
前川あさ美	子どもの心のSOSへの支援.	宮城県気仙沼市特別支援教育コーディネーター連絡協議会(宮城県発達障害拠点事業)	2013-08	気仙沼市
前川あさ美	傷ついた子どもの心の支援	東京都昭和女子大学初等教育学科 特殊研究講座	2013-09	東京
前川あさ美	相談・面接技術研修.	岩手県障害者地域生活支援事業連絡協議会	2013-10	盛岡市
前川あさ美	発達に課題がある子どもへの対応—理解と支援の視点—	東京都小金井市立小金井第二小学校生活指導全体会	2013-10	東京
前川あさ美	相談・面接技術研	岩手県障害者地域生活支援事業連絡協議会	2013-12	盛岡市
前川あさ美	発達障害と震災	宮城県石巻市通所施設「かもめ園」	2014-03-10	石巻市
Kawamura, H.	Lessons learned from March 11, 2011	Japan-U.S. workshop of the support of persons with disabilities in case of	2013-09-24	Washington D.C., USA.

		disasters		
<u>Kawamura, H.</u> <u>Hamada, M.</u>	Accessibility requirements of tsunami evacuation manuals.	NAPSIPAG' s 10 th International Conference/ Workshop,	2013-10.	New Delhi, India,

